

平成30年度決算に基づく 特別会計・水道事業会計

□特別会計の概要

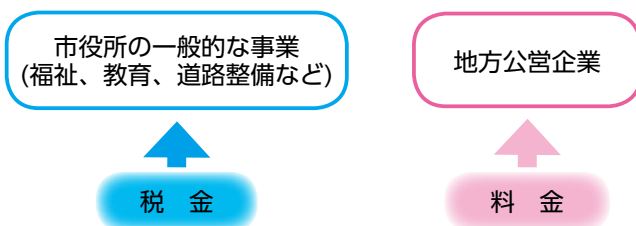
特別会計(13会計)の決算額を合計すると、歳入が340億2,974万9千円で、前年度と比べて20億9,078万2千円(5.8%)の減少となり、歳出が335億2,906万5千円で前年度と比べて20億8,909万3千円(5.9%)の減少となりました。

会計名	歳入(A)	歳出(B)	差引額(A-B)
国民健康保険(事業勘定)	154億7,664万7千円	154億7,664万6千円	1千円
国民健康保険(直診勘定)	5,916万3千円	5,861万9千円	54万4千円
古河福祉の森診療所	1億4,120万円	1億3,945万9千円	174万1千円
後期高齢者医療	13億3,944万3千円	13億3,751万6千円	192万7千円
介護保険(保険事業勘定)	102億6,125万4千円	99億7,552万1千円	2億8,573万3千円
介護保険(介護サービス事業勘定)	2,116万円	2,058万4千円	57万6千円
公共下水道事業	38億711万3千円	37億99万5千円	1億611万8千円
農業集落排水事業	7億1,587万3千円	6億8,390万3千円	3,197万円
ゴルフ場事業	8,963万6千円	8,210万2千円	753万4千円
古河駅東部土地区画整理事業	12億1,944万6千円	11億5,508万2千円	6,436万4千円
片田南西部土地区画整理事業	71万1千円	71万円	1千円
公共用地先行取得	1億5,916万9千円	1億5,916万9千円	0円
仁連地区新産業用地開発事業	7億3,893万4千円	7億3,875万9千円	17万5千円
合計	340億2,974万9千円	335億2,906万5千円	5億68万4千円

□水道事業会計の概要

水道事業は法律において「地方公営企業」と位置付けされており、事業に必要な経費は、原則として水道料金などの収入で賄う「独立採算の原則」に基づき運営されています。

【問】 ☎水道課Tel.76-1511



水道水をつくるための予算(消費税込み)	
収益的収入(A)	26億5,864万7千円
収益的支出(B)	21億4,680万円
収支差額(A-B)	5億1,184万7千円

水道施設を整備するための予算(消費税込み)	
資本的収入(A)	4億1,881万円
資本的支出(B)	14億9,253万6千円
収支差額(A-B)	-10億7,372万6千円

事業評価を実施しました

平成30年度に実施した市の事業を対象とした事業評価を実施しました。事業評価は、事業の目的や効果の達成状況を基に指標を設定して評価を行ったものです。

評価結果は、市ホームページおよび右記の市内各施設でご覧になれます。

【問】 ☎企画課Tel.92-3111

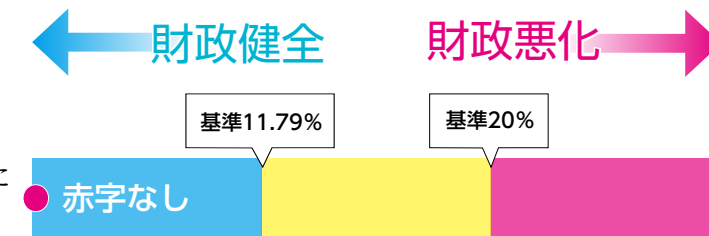
■事業評価書を閲覧できる施設

- 古河地区：☎市民総合窓口室、古河東公民館、中田公民館、はなももプラザ、いちようプラザ
- 総和地区：☎企画課、ユースセンター総和、とねミドリ館(改修工事終了後に閲覧開始)
- 三和地区：☎市民総合窓口室、燦SUN館、コスモスプラザ(庁舎3階)

平成30年度決算に基づき算定した 財政健全化判断比率

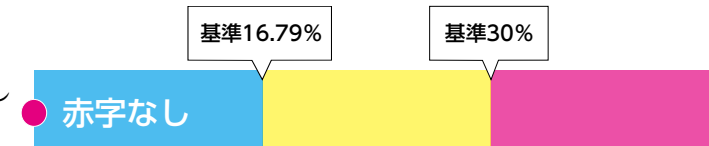
実質赤字比率

一般会計等の実質的な赤字額が、標準的な収入に対してどれくらいの割合になるかを示すものです



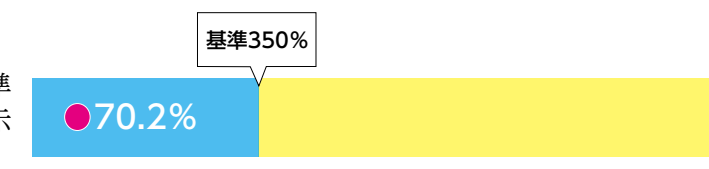
連結実質赤字比率

全会計の実質的な赤字額が、標準的な収入に対してどれくらいの割合になるかを示すものです



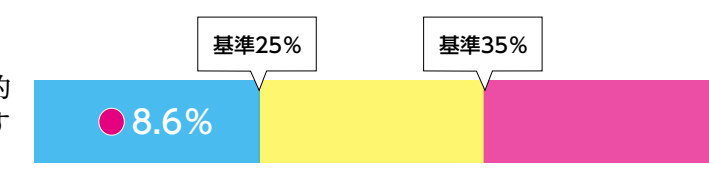
将来負担比率

一般会計等が抱える実質的な負債の残額が、標準的な収入に対してどれくらいの割合になるかを示すものです



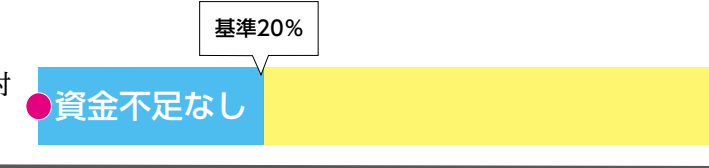
実質公債費比率

一般会計等の実質的な借入金の返済額が、標準的な収入に対してどれくらいの割合になるかを示すものです



資金不足比率

各公営企業会計の資金不足額が、事業の規模に対してどれくらいの割合になるかを示すものです

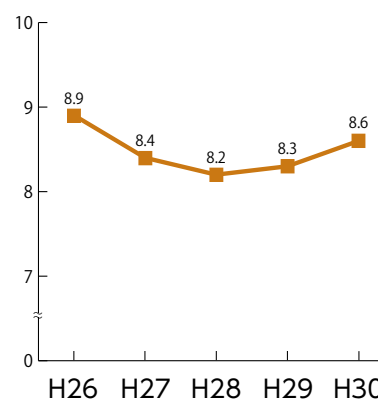


●市の現状値 ■健全 ■早期健全化団体 ■財政再生団体

【平成30年度決算に基づく現状値】

市の財政状況を表す現状値は、全て国の基準で「健全」とされる範囲内です。今後も、将来にわたって継続可能な財政運営を図っていきます。

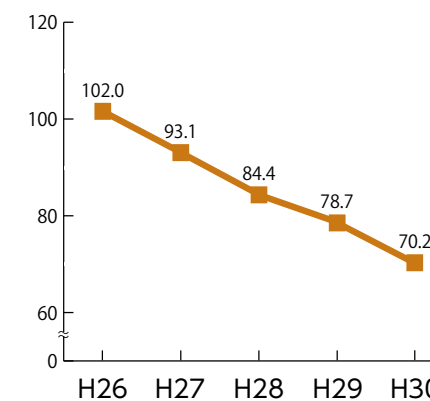
□実質公債費比率



市の実質的な借入返済額は減少傾向にあり、今後は減少する見込みです。



□将来負担比率



返済により負債が減少しているため、将来負担する負債の割合も減少してきています。

